

企画展「丹阿弥丹波子」開催要項

展覧会概要

展覧会名称	企画展「時のきらめき 丹阿弥丹波子 銅版画展」
会期	2015(平成27)年4月5日(日)～6月7日(日)〔開館日数:51日間〕
主催	公益財団法人 茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
後援	読売新聞
協力	ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション
観覧料(仮)	一般 600(500)円 大学生 400(300)円 高校生、市内在住65歳以上、市内在住障害者およびその介護者は無料 ※ ()内は20名以上の団体料金
会場	茅ヶ崎市美術館
休館日	4月6日(月),13日(月), 20日(月),27日(月), 30日(木) 5月7日(木),8日(金),11日(月),12日(火),13日(水),18日(月),25日(月), 6月1日(月)
開館時間	10:00～18:00(入館は17:30まで)

◎内容

丹阿弥丹波子(たんあみ・にわこ)は、1960年頃から50年以上にわたりメゾチントという技法を用いて、野に咲く草花、野菜、日常的に使うグラスなど、身近にあるものをモチーフにした作品を数多く発表しています。静謐な空気を漂わせる一連の作品は、見る者に目の前にない色を感じさせる不思議な力を持ち、描かれたモチーフは、漆黒の闇を思わせるモノクロームの画面の中で、光を纏っているかのように浮かびあがります。作品制作にあたり、「常に心を平静に保とうとするも、自ずと感情の揺らぎが刻みこまれてしまう」という作家の言葉の通り、草花の時々表情、季節の陽の光や風、自身におこる日々の出来事まで、様々な要素が彫り込まれ、日記のように綴られてきました。本展では、約100点のメゾチント作品に加え、これまであまり紹介されることのなかった初期のエッチング作品なども併せて展示し、作家の画業を辿ります。無限の色彩とストーリーを見せる丹阿弥丹波子の世界を紹介します。

◎メゾチントについて

銅版画の技法の一種。磨いた銅板に、ベルソーという弧状の刃で端から細かい穴を刻み込んで行く。一面に刻まれた版を刷るとメゾチント特有のビロードを思わせる黒になる。この版を、スクレイパーやバニッシャーといった道具で削ったり磨いたりしてモチーフを浮かび上がらせていく。その削り加減や磨き加減によって、ハイライトやハーフトーンの色合いを創り出す。丹阿弥の場合、その緻密で繊細な表現ゆえに、およそ40cm四方の作品では製版に3～4ヶ月の時間を費やすという。

◎作家プロフィール

1927年東京に生まれる。幼児期より日本画家である父(丹阿彌岩吉)の画室で日本画の画材に親しんで育つ。1942年文化学院女学部在学中より木炭デッサンを学ぶ。1953年油彩画で独立展に入選。1956年長谷川潔の作品との出会いがきっかけとなり、駒井哲郎に師事、銅版画を始める。1958年春陽展入選、以降連年出品し、研究賞、岡鹿之助賞を受賞。1971年資生堂ギャラリーで自主企画による個展を開催以降、氷上町立植野記念美術館(現・丹波市立植野記念美術館)、町田市立国際版画美術館など、各地で展覧会を多数開催。また、遠藤周作、芥川喜好などの本の装画も手がける。現在、春陽会会員、日本美術家連盟会員。

関連催事

◇ ゲストトーク

講師 丹阿弥丹波子(銅版画家)、入江観(画家)、小川稔(茅ヶ崎市美術館館長)
日時 2015(平成27)年4月11日(土) 14:00～
会場 茅ヶ崎市美術館 エントランスホール
料金 無料

◇ ミニコンサート「ヴァイオリンとチェンバロの調べ モーツァルトの時のきらめき」

演奏者 楠山裕子(チェンバロ)、早房あかね(ヴァイオリン)
日時 2015(平成27)年5月3日(日) 14:00～
会場 茅ヶ崎市美術館 エントランスホール
料金 無料

◇ 実技講座「銅版画メゾチント体験」

講師 浜西勝則(銅版画家)
日時 2015(平成27)年4月9日・16日・23日(いずれも木曜日) 13:00～16:00
会場 茅ヶ崎市美術館 アトリエ
定員 16名(事前申込制)
料金 2,500円

◇ ギャラリートーク(美術館スタッフによる展示作品解説)

日時 ①2015(平成27)年5月10日(日)／②5月23日(土) 14:00～(両日とも)
会場 茅ヶ崎市美術館 展示室 1・2・3
料金 無料(要 観覧券)

以上

茅ヶ崎市美術館

〒253-0053

神奈川県茅ヶ崎市東海岸北 1-4-45

TEL:0467-88-1177/FAX:0467-88-1201

担当:小川稔、藤川悠、竹上早奈恵